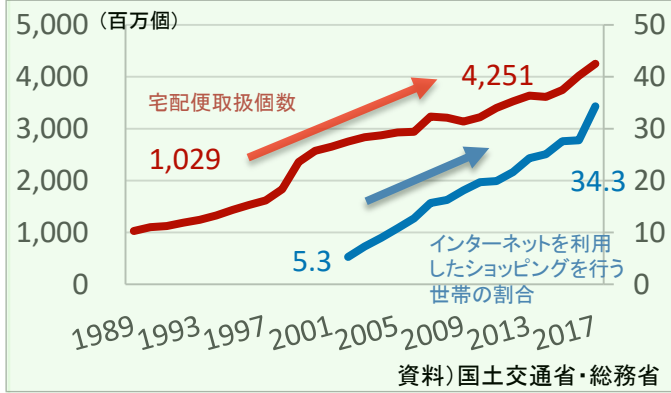


第I部 新しい時代に応える国土交通政策～技術の進歩と日本人の感性(美意識)を活かして～

第1章 平成の時代を振り返って

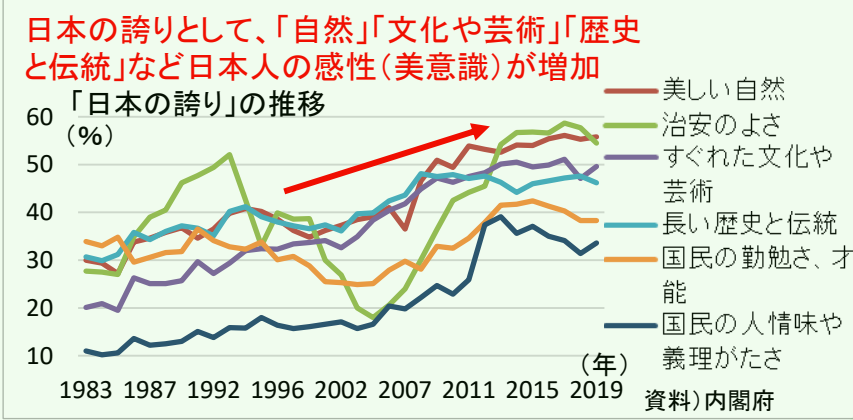
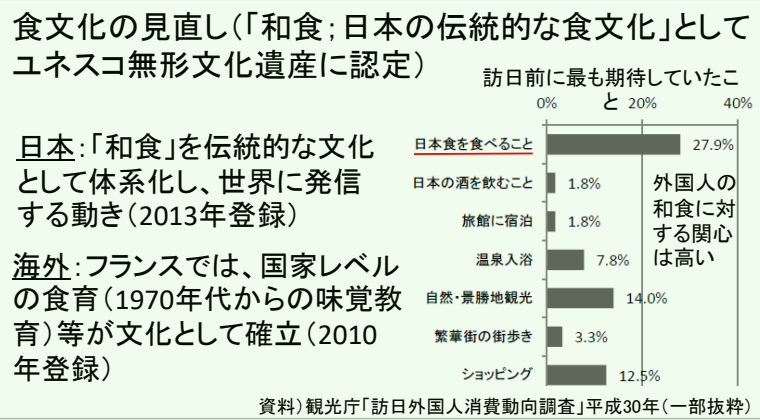
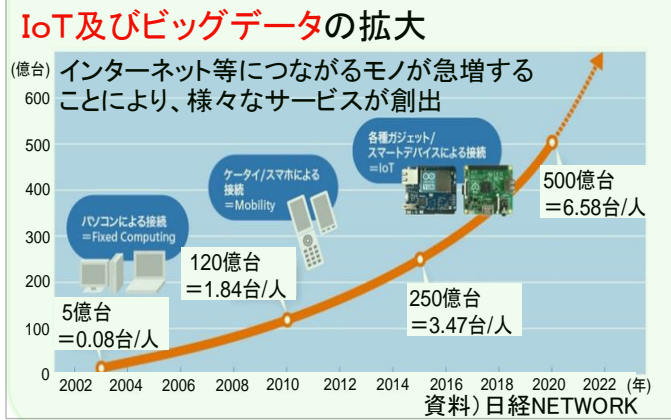
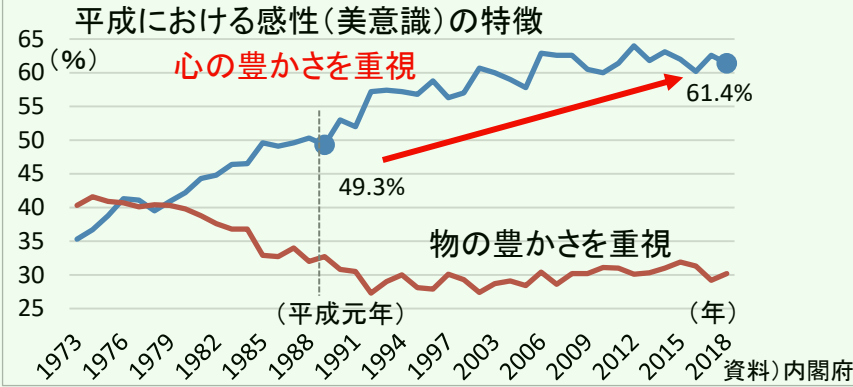
社会を変化させた技術の進歩と日本人の感性(美意識)の変化を振り返る。(平成を中心に)



日本人の感性(美意識)の例(昔からある感性)
 伝統的な文化や風習の尊重
 「侘び・寂び」・・・
 簡素で静寂な中にある美しさ
 (ドイツ人建築家ブルーノ・タウトが絶賛した桂離宮など)
 異なる文化を摂取し、在来の文化と融合し、独自の文化へ(言語、宗教、食文化等)

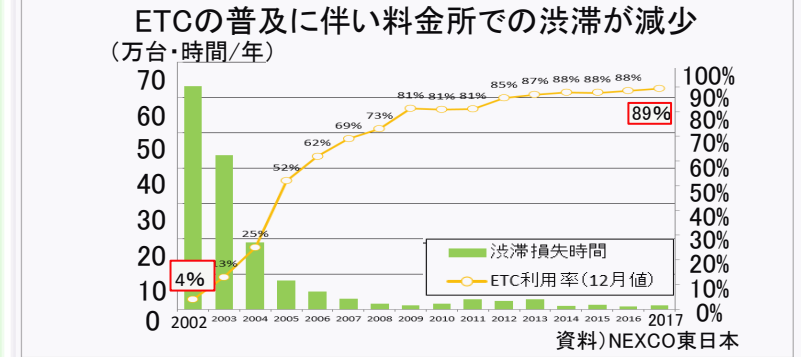


(桂離宮)



第2章 これまでの国土交通政策の変化

国土交通分野における、これまでの技術活用や日本人の感性(美意識)を踏まえた変化について紹介する。



北陸新幹線延伸による金沢駅の改良に伴い、地域の伝統文化を活かした「鼓門(つづみもん)」等が設置
 →国外からも高く評価され、多くの観光客が訪問
 (金沢駅「鼓門」)

第3章 新しい時代と国土交通政策

新しい時代における社会の変化と求められる国土交通政策のあり方について考察する。

時間的・場所的制約からの解放

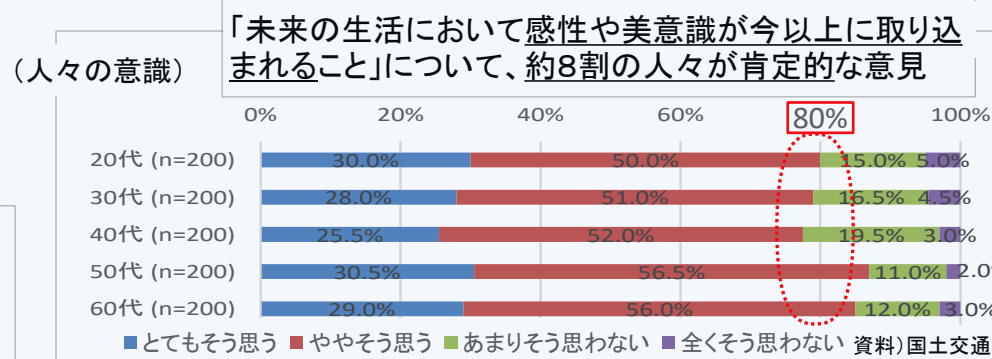
- 自動運転により移動時間が自由時間へ(一人一日あたりの運転時間は平均80分)
- 東京-大阪間が67分(約80分短縮) 三大都市からの鉄道一日交通圏の拡大
- VRを活用し、東京-小笠原諸島間(約1000km)で「感触」まで伝わる遠隔観光(現地のウミガメとの接触を感じることが可能)



資料)国土交通省



資料)KDDI



豊かな生活空間の創出

- これまでの取組みの深化
- 新技術と一体となった新たな取組み (サイエンスとアートの融合)

(海外の流れ) 欧米において生活空間の中に感性(美意識)を感じる空間を取り入れてブランド価値を高め、賑わいを創出する動き



ルールマラン(「フランスの最も美しい村」)

High Line Park © morficus
 ニューヨーク・マンハッタン南西部「ハイライン」

(取組例)

<住空間>
 伝統や自然と調和した住宅の維持・増加
 伝統家屋を活かすリノベーション
 資料)鎌倉市70年古民家



<公共空間>
 優しさや思いやり等を感じるきめ細やかなまちづくりの推進
 新しいベンチの設置費用を寄付することで個人のメッセージを刻むことができる「思い出ベンチ」
 資料)東京都建設局



<移動空間>
 利用者のニーズ等を反映した車内空間の活用
 車内がコンサートホールやオフィスのような空間となる自動運転車
 資料)パナソニック



第II部 国土交通行政の動向

国土交通行政の各分野の動向を政策課題ごとに報告